

さまよひ歩く

さまよひ歩くユダヤ人のやうに私は足早に歩くのだ
さうしてお前に逢つた時に いきなり口早に言ひ出すのだ
お前の肩に手をかけながら 見て来た風景を
逢ひたかつた 私の気持を 私は口早に言ひ出すのだ

ねむれなかつた夜に 私がお前をいとほしく思つたことを
ねしづまつた街では 並木の葉が風にひどくゆすぶられ
暗かつた人生がお前のために明るく思へるやうになつたことを
ヒヤシンスの花が朝日の中で窓から笑ひかけてゐたことを

お前に愛をささやいたのは 私だけではなかつたやうだ
ねしづまつた街で もつれるやうにお前と抱きあつたのは
お前のくちびるを奪つたのは 私だけではなかつたやうだ

私はお前を抱きしめる お前に見すてられるまへに
私の人生がすぎ去つて行つてしまふやうにいのりながら
お前のやはらかい手を胸に押しあてながらお前の瞳に見入るのだ